

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21965
事業名	エイズ等予防対策費					
評価担当課	所属名	保)保健所 感染症総合対策課				
	課長名	寺田 健作	担当者名	加藤 亜弥	電話番号	011-622-5199
施策名	主	地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	感染者の早期発見を目的にHIV・梅毒抗体検査の受検への促し、感染予防を心がける行動変容について啓発するため、事業の継続に取り組む。また、検査事業においては、新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策を講じた検査体制の確保につとめる。			
		長期	性感染症の感染予防及びまん延防止を図るため、性感染症・エイズ・HIVについて正しい情報・知識を普及し、偏見の払拭を図るとともに、検査を受けることへの抵抗を軽減し、検査の受検を促進する。			
	取組内容	エイズ等の感染予防及びまん延防止を図るため、予防啓発事業や検査相談事業を行う。 ①エイズ対策推進協議会の設置:「札幌市エイズ対策推進協議会」を運営する。 ②エイズ対策推進のための研修・人材養成事業:エイズ対策に係る研修に職員を派遣する。 ③啓発普及活動事業:世界エイズデーにおける各種予防啓発活動等を行う。 ④HIV抗体検査及び相談業務に関する事業(各区保健センター及び民間委託の検査センター) ⑤梅毒抗体検査及び相談業務に関する事業(各区保健センター)				
実施結果	新型コロナウイルス感染症対策のため、世界エイズデー(12月1日)を中心とした予防啓発イベントは中止し、地下鉄大通駅構内等での街頭大型ビジョン放映、各区保健センターと地下鉄駅掲示板に検査の受検を啓発するポスターを掲示、エイズのまん延防止及び患者等に対する差別・偏見の解消について市HPに掲載、レッドリボンバッジの配布による啓発を行った。また、各区保健センター及び民間委託の検査センターにてHIV抗体検査及び相談業務を実施(令和3年度受検者数:816名、相談者数:200名)。札幌市エイズ対策推進協議会はオンラインにて実施した。					
事業実施における工夫点	新型コロナ感染対策を考慮しつつ、非接触型の普及啓発事業を行った。このうち、男性と性的接触のある男性を対象とした即日検査の場では市民団体と連携し、より当事者の立場に立った効果的な啓発を実施した。					
対象者	市民	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針、性感染症に関する特定予防指針					
他都市の状況	東京都、7政令指定都市がHIV検査センターを設置・運営を委託、梅毒検査は全ての政令指定都市が実施している。他都市においても、新型コロナウイルス感染症流行時には検査の一部中止や普及啓発活動の規模縮小を要した。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	10,909	15,000	11,550	15,000	
うち特定財源	1,659	4,408	1,492	4,397	
人工	1.1	1.1	1.1	1.1	
人件費	7,920	7,920	7,920	7,920	
計(事業費+人件費)	18,829	22,920	19,470	22,920	
事業費の内訳	令和3年度決算	01報酬(エイズ対策推進協議会委員への報償費)138千円 10需用費(採血用品、啓発資材等の購入)665千円 11役務費(HIV抗体検査費用)476千円 12委託料(検査センター運営委託、検査広告宣伝業務等)9,143千円 その他 684千円			
	令和4年度予算	01報酬(エイズ対策推進協議会委員への報償費)163千円 10需用費(採血用品、啓発資材等の購入)1,494千円 11役務費(HIV抗体検査費用等)1,532千円 12委託料(検査センター運営委託、検査広告宣伝業務等)10,793千円 その他 1,018千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	HIV感染者届出数のうち、発病してからの届出割合		
活動指標2		指標名			
活動指標1		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
活動指標2		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
成果指標2		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	エイズ発病前の感染を早期発見し、治療と感染拡大防止に結びつけることが重要であるため、HIV感染者届出数のうち、発病してからの届出数の割合を指標としている。アクションプラン2019では、令和3年度の目標を22%以下と設定、実績は37.5%(24名中9名)であった。新型コロナウイルス感染症流行後、検査機会の減少が一因となり、発病してからの届け出数の割合が増加しているものと考えられた。今後も、HIV感染者の早期発見や啓発ができるよう事業継続が必要である。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	HIV抗体検査は、市民を対象に無料、匿名で実施しており、受検者の利便性の確保や検査機会の拡大を図るため、平日日中の検査のほか、夜間・休日即日検査を実施している。また、土曜検査は、委託にて実施している。新型コロナ流行状況に合わせ一部検査中止や定員制限の体制を検討しながら実施であったが、妥当な事業規模であったと考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	HIV抗体検査は、各区保健センターで実施しているほか、検査センターを設置し、運営を委託している。例年の受検者数は1,000人以上を維持しており、令和2年度より新型コロナの感染拡大による検査の中止等で受検者数は大幅に減少したが、令和3年度の受検者数は令和2年度と比較し200名以上増加しているため、実施手法は適切と考える。また、新型コロナ感染対策も考慮しつつ、街頭大型ビジョン放映や、エイズ予防啓発カードの作成・配布など、非接触型でも実施できる普及啓発事業を行った。			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	令和3年度の受検者数は、新型コロナ感染症対策による検査中止も一因となり例年と比較し減少したが、令和2年度と比較し200名以上増加した。流行状況に応じ検査回数や定員制限など、規模を随時調整しながら運営することができた。平成30年度からHIV抗体検査に梅毒検査も併せて、平日日中のほか夜間・休日即日検査を実施しており、検査の利便性を高め、対象者のニーズに応えるものとなっていると考える。			
市民参加の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	市民がエイズ・性感染症に関する正しい知識と関心をもち、感染予防を心がける行動変容を促す機会となるよう、HIV抗体検査、梅毒検査の周知・啓発方法の工夫・検討を行う。今後も新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じ、非接触型の予防啓発事業の実施も含め内容を検討するとともに、HIV抗体検査回数や定員の制限など対策を講じつつも、継続した検査機会の確保につとめていく。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	地下鉄大通駅構内等での街頭大型ビジョン放映や、エイズ予防啓発カードを作成、各区保健センターや配布希望のあった大学・専門学校へ配布し、普及啓発を行った。			見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	新型コロナウイルス感染予防対策を講じるため、年度当初予定していたHIV抗体検査・梅毒検査の実施回数や予防啓発事業の実施内容の変更を要した。今後も新型コロナの流行状況に合わせた規模での事業実施内容について、継続して検討していく必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 感染者の早期発見を目的に、HIV抗体検査・梅毒検査を継続し検査機会の確保につとめる。また感染まん延防止へ行動変容を促すため世界エイズデーキャンペーンなど予防啓発事業の効果的手法について、検討が必要である。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 非接触型でも実施できる予防啓発事業や検査機会の確保に伴う検査費用、実施にかかる新型コロナウイルス感染予防対策を講じるための費用等の確保が必要である。			見直し効果額